



たぶらかし
今昔ばなし
Taburakashi Konjaku Banashi

禍害が結ぶ
濃密な貴賤の構合

presented by

晴永牧兎



ああっ
奥方様
奥方さま…っ

そうっ
もっともっ
打ち付けて
おくれっ

腹の
奥の奥までえ

このような
あばらやで

むしろの上で
組み敷かれてっ

ああ…
興奮する

わたくしとも
あろうものがっ



今朝
崩れあとを
見に向かった時には

このようなこと
考えもして
おらなんだが…

いやあひどい
雨じゃったな

昨日ここで
ひどい音が
したが



おおお







結局おつきで
助かったのは
雑仕女のおゆうと
わしとそなたのみか

しかし奥方様には
大した怪我もなく
何よりであった

私がひとしり
明朝城に助けを
求めてきます

そうしてくれるか

おお
佐吉どの



ほれほれ
山菜汁ですが
飲みませえ

あつたまり
ますぞ

それにしても
佐吉どの

そなたここに
ひとりで
住んでおるのか

親は？

もう
両方とも
ねえです

これは
かたじけない

山菜やきのこ
薬草など売って
どうにかこいつと
暮らしてこれましたが

この山崩れで
それも厳しく
なるかと思いますがね

そうか…
大変じゃのう

ではこれを
奥方様と
おつきの子にも
お持ちしますんで

こんな山奥で
良きめぐり合いで
あつたな

まことまこと

しかし綺麗な
お人じやったな
ゴマよ



あれが
噂に聞いていた
城の
奥方様じゃったのか

去年殿さまを
亡くされてから
この国を實際
ひきいておるといふ

お子は
おられんと聞か

でかい乳
じゃったのう…

！こらゴマ
股ぐらを
嗅ぐな

珍棒くらい
お前にも
ついとるだろうが



何をしとるか
小僧っ

奥方様の
お近くで
なんとはしたない

ガッ

あっ

！夕飯か

やぱり
おかあ様の着物は
どげえな

はあ：
お口に合うか
わかりませんが

ネマガリタケやら
ヤブカンゾウやら

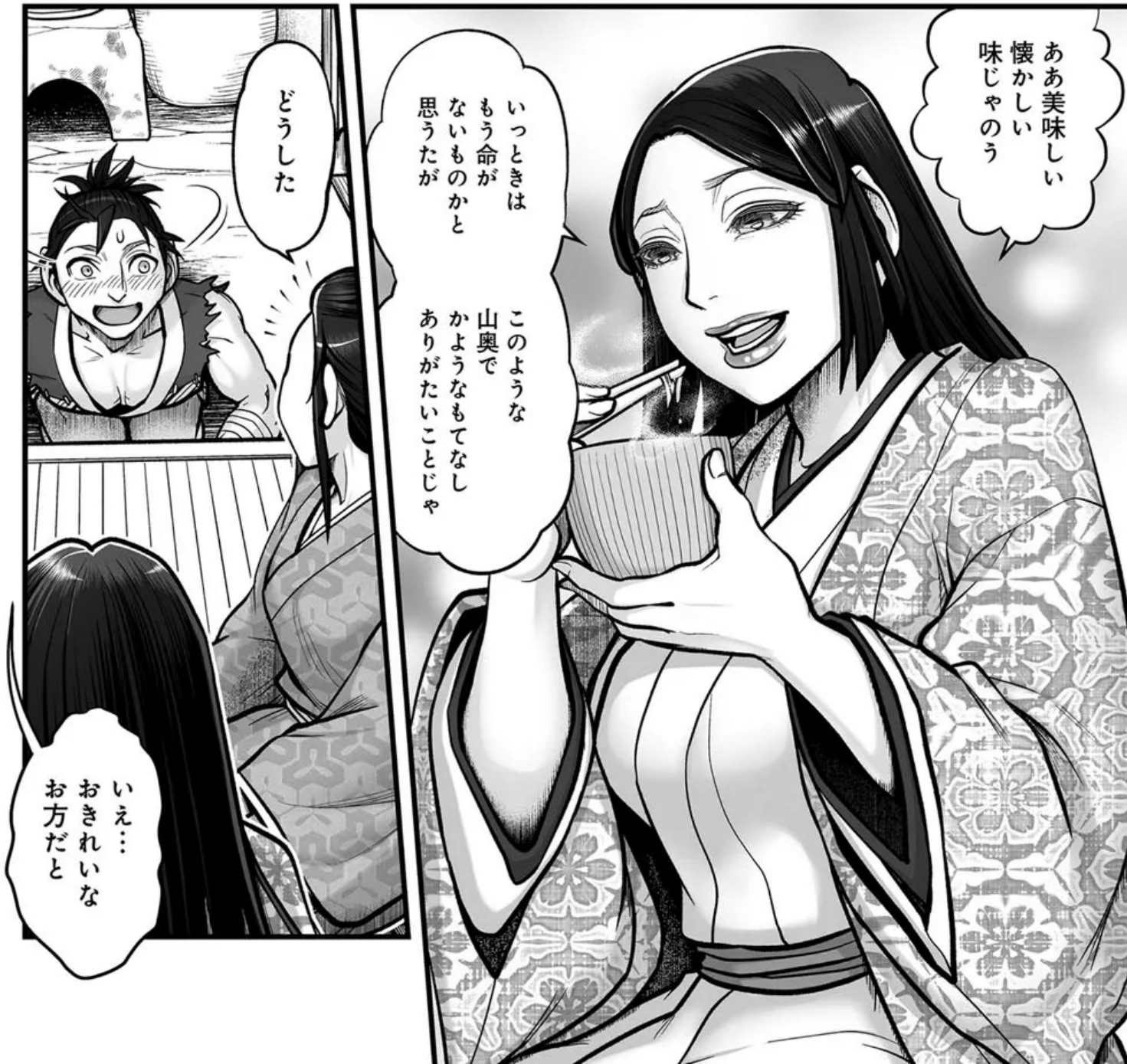
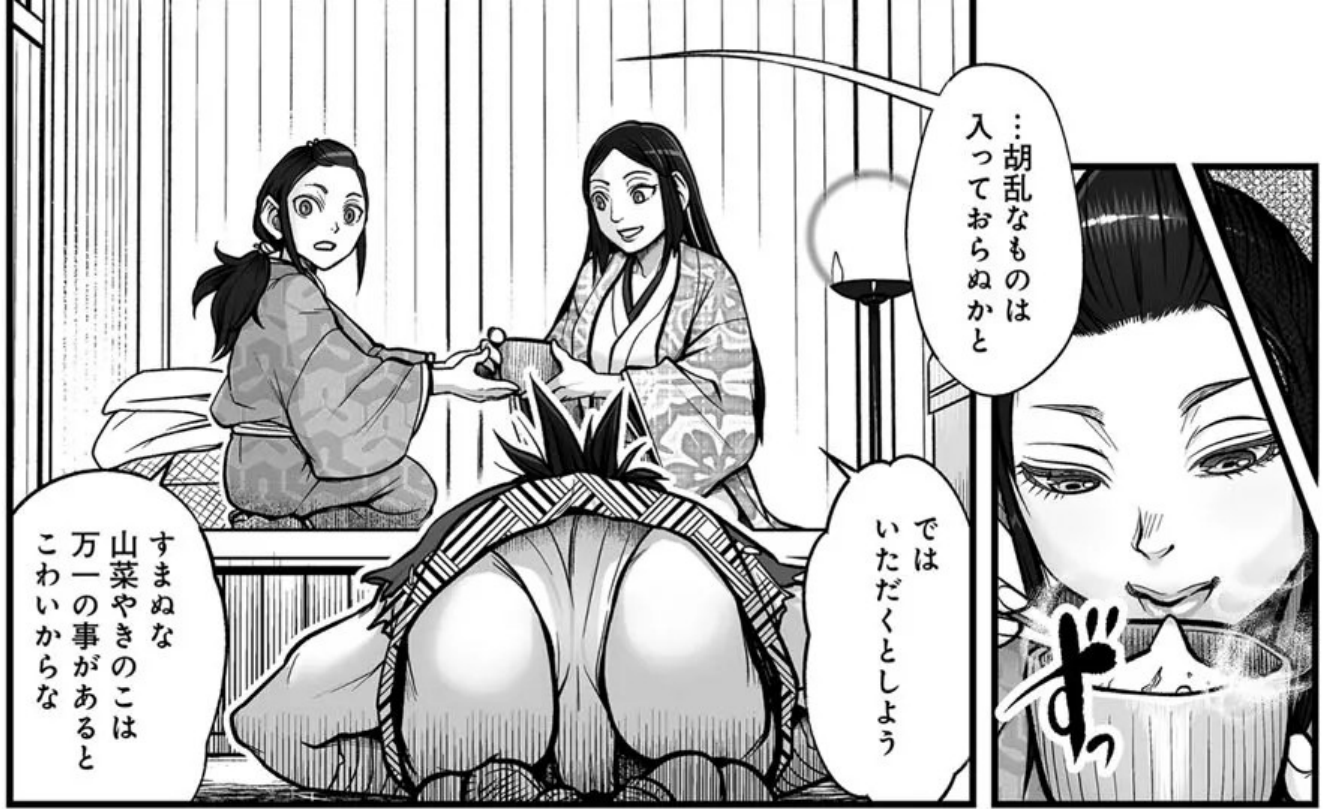
うまくて薬なものも
入れていますんで
どうぞお召し上がり
くださいえ

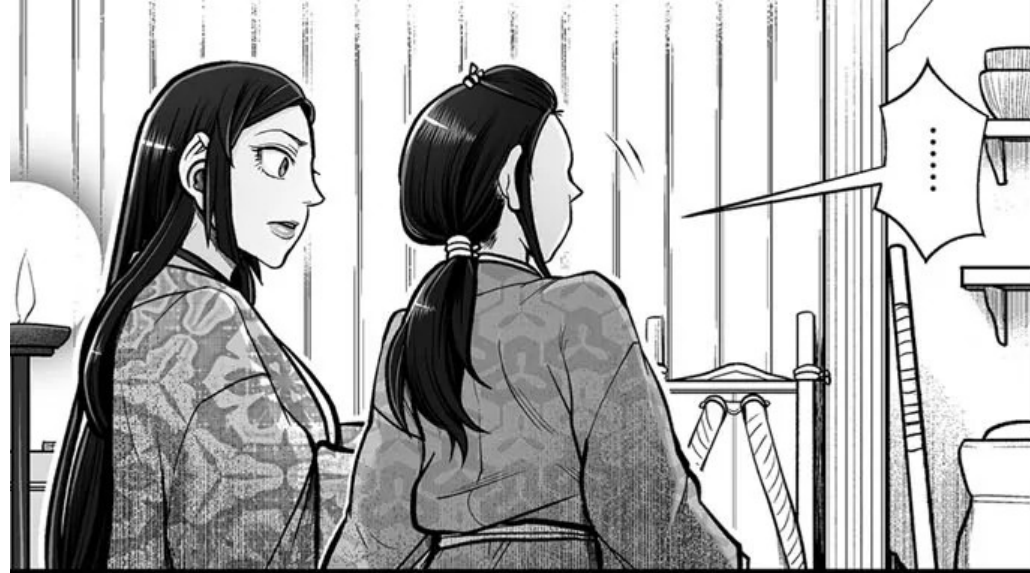
それは：
ありがたい

うれしい
心遣いじゃ

こちらに
持ってきておくれ

わたくしからも
礼を言いたい





それに
奥方様ほど
高貴なお方でも

このような汁を
懐かしく
感じなさるのかと



し…
失礼を
申しました

粗末な小屋ですが
どうぞごゆっくり
お休みをっ



おや
思ってたより
遅しいからだに
かわゆい顔

おぼろげに
覚えておる

この腕が
わたくしをあの時
助けてくれたのか



…お待ち

去る前に
少しそばで
見せておくれ

わたくしの
命の恩人の顔を



は…

そしてこの目が
あの時わたくしの
まろび出た乳房を
じっと見つめて
おったのじゃな

……!

よいよい
どうという
ことはない

非常時のこと
咎めはせん
面を上げよ

おはよう

佐吉……とか
申したか

我が国は貧しく
この戦国の世
いつ攻め込まれるかも
わからん

褒美として
米や食品を
多くはやれん

だからこれは
わたくしからの
せめてもの礼

そなたが
見ていたこの乳

思う存分
触らせて
やるというのは
どうかえ…?

正直
いい乳じゃが
他にバレたら
打ち首じゃぞこれ

ギンギンじゃが
どうにか
断らんと

大体おれなぞに
乳を揉ませようとは
いったいどういう…

そ…
そうかつ





お…
お許しを

も…もう
礼はたつぷり
いただきました

そう言うな

そなたのこころは
まだまだ満足
しておらんぞ

ああ…
思いのほか
遅しい…

掌も…
この魔羅も

思い出して
しもうたのじや

わたくしが
殿が亡くなつてから
必死に忘れていた
男への愛欲…

そなたに乳を
見られたことで…

…助け起こされた時
背中に感じた
熱いこのたぎりで

ほんに
業の深い
魔羅よ

一度はこの手で
果たさせてやらんと
気が済まぬ…!!

おおっ
射精た…♥

すごい
すごい

う…
あああつ
おゆるしを…
おゆるしをおつ

ああ!!

はあ…
べたべた

殿は…
こんなに
飛ばさなかった
熱い…

お…
奥方様

奥方様あ…っ



失礼ながら
そういうの
ぐっときたんで

あ…やっぱり
おおき…いッ

思わず…
すいませんね

初めてですが
女の中というのは
いいもんですなっ

熱うて
にゆるにゆるして
気を抜けば
すぐ
果ててしまいそうな

こんなので
突かれ…たら
本当…もう

思ったとおり
そなたの
良すぎ…っ

だ…だめ
もつとオッ

あ…ん

がっ

はあッ

いっ

ん

ちゅ

の

いっ♡
もっ♡

久しぶりの
魔羅…♡

がんばれ

それにっ

はじめて…っ
こんな
奥までえ

がんばって
おくれ
佐吉ッ

佐吉でっ
いきたいっ

そなたの魔羅で
わたくしに
見せておくれ…!

この一夜の
思い出にっ

忘れられぬ
極楽をっ

はい…
はいっ
奥方様っ

い…
イクうっっ

あゝあ



ちゅっ……

ん……っ♡

ん…

んっ♡

ああ
まだこんな
硬い…っ

奥方様…
そこで
しゃがんでっ

はああっ♡

んはあっ♡

おおっ♡

本気で奥方様に
誑かされて
しもうたようで

すみません
もう入れずに
いらねえ…

もう
打ち首でも
なんでもいい
今夜はとことん
二人で極楽
見ましようやっ

はっ

バ、バ、バ、

ずんずんずん



認めんぞっ

貴様が城に
来る事なぞ！

御

やはりただの
木こりでは
ないな…

あんたもな
くのいちさん

おとうもな
昔忍びだった

表向き
修験者だったが

おかげで
おれも色々
仕込まれた

…だが
反対だ

城に来れば
戦で死ぬぞ

実家の大殿は非情…
奥方様も見殺しに
なさるだろう

…おとうは
死ぬまで
悔いていた

足抜けまでして
添い遂げたおかあを
野盗から守れず
死なせたことを

あ…

おれは惚れた女を
命がけで護れる
男でありてえ

死んだおかの
分までもな

出立するぞー

おっと
行かねえと

佐吉
来たか

やはり残るのかと
思うたぞ

奥方様の
ためならば
たとえ火の中
水の中

昼も夜もなく
身を粉にして
お仕えしますとも

へへ
まさか

…よろしく
頼みますぞ

…とりあえず
今宵…な♡

わん

へい♡